

令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立貴志南小学校
校長氏名	寺上 円女
作成日	令和 5年 3月 3日

1 教育目標

望ましい人間像をめざし、一人一人の子供の主体性・創造性を養い、心身ともに健康で豊かな人間性や社会性のある子供の育成

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	たくましく健やかな体	大きく豊かな心	確かな学力
指標	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校の様子がよく伝わった【HP閲覧数1年間に1万回】 ◆地域学習を学年に応じて1回以上行う【教師100%】 	<ul style="list-style-type: none"> ◆朝ごはんを食べた【児童95%】 ◆積極的に運動を行うよう計画し、実践する【教師95%】 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「わたしは学校が楽しい」【児童95%】 ◆「命の大切さや社会の決まりについて教えてもらっている」【児童95%】 ◆QUの学校生活満足群【85%】 	<ul style="list-style-type: none"> ◆県到達度調査等の無答率の改善【県平均】 ◆「学校での勉強がわかる」【児童85%】
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎保幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ○地域の資源活用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的な生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いじめの未然防止、早期発見 ◎インクルーシブ教育の普及 ○道徳・人権教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや学校だよりを通して学校の情報を発信する。 ・地域人材の活用。「地域先達」への取組。 ・中学校区での小小、小中の連携を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、換気、マスク着用の徹底。 ・ブラックライトを使用した、「手洗い」の授業の実施。 ・休み時間の外遊びの推奨。 ・医師等によるアレルギーや心肺蘇生法についての職員研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを毎学期実施。 ・QUを実施し、学級の様子を把握する。 ・「南の子」において、児童の様子を共通理解する。 ・あいさつの励行 ・人権授業参観、講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字博士試験の実施。 ・放課後学習フォローアップの実施。 ・教育実習生の受け入れ。 ・ノート指導の共通理解と取組。 ・自分の言葉で説明する時間の確保。 ・読書の推進。
取組の結果と課題（評価）【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・HP閲覧数は2月末で約5000。学校の取組についてもっと見てもらえるよう工夫が必要である。 ・クラブ活動でタグラグビーを行ったり、地域の田んぼで田植えや稲刈りりを体験させていただいた。 ・小中交流会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大休憩や昼休憩には、多くの子供が外に出て遊んでいる。また、学年を越えて一緒に遊ぶことも多い。 ・手洗い、うがい、換気を徹底し、健康管理に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを毎学期実施。 ・QUを実施し、学級の様子を把握する。 ・「南の子」において、児童の様子を共通理解する。 ・あいさつの励行 ・人権授業参観、講演会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字博士試験の実施。 ・放課後学習フォローアップの実施。 ・教育実習生の受け入れ。 ・ノート指導の共通理解と取組。 ・自分の言葉で説明する時間の確保。 ・読書の推進。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域先達事業」の推進。地域素素材の教材化や地域人材の活用の推進。学校と地域との関わりの活性化。 ・学校行事の見直しと参観体制の構築。 ・学校からの情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーや心肺蘇生法などの研修の実施。 ・地震や大雨などに対する安全確保をさらに充実させる。 ・マスク着用が個人の判断になる中ででの感染対策の充実。 ・児童の体力増進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実。 ・T2や個別の取り出し授業など個に対応した体制作り。 ・道徳授業や人権に関する授業の充実。 ・いじめアンケートやQUの実施により問題の早期発見・解決を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかった」「できた」と児童が思えるよう教員の授業力向上を目指す。 ・「無回答率」の改善を目指した取組を継続する。 ・学用品の統一をはじめとする授業への構えを充実させる。

3 その他の課題

・本校の児童は、ゲームやスマホに向かう時間が平均に比べ長い実態がある。また所持率も高い傾向にある。利用についてのルール作りなど保護者への啓発や、児童への使い方指導の充実が必要である。

・令和5年度は、コロナがインフルエンザ並みの扱いになる予定である。行事の精選を行いながらも、学校と地域、保護者との関わりを深めていきたい。

